

6月17日 水曜日

2015年(平成27年)

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

# 「難民支援の輪広げて」

## 海星学院高で特別講演会 室蘭



講演会の後、水野さん(右)から世界の難民の現状や国連の仕事について聞く生徒たち

6月20日の「世界難民の日」にちなんだ特別講演会が16日、室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)で開かれた。全校生徒が聴講し、世界には紛争を逃れて避難し、不安な生活を強いられている難民が大勢いることを知り、保護と援助に対する関心を高めた。

(成田真梨子)

講師は、世界の難民の保護と問題の解決へ向けた国際的な活動を主導・調整する国連UNHCR協会のフアンドレイジンググループ北海道・関西エリア担当の水野慎也リーダー(31)。シリアやミャンマーの難民の現状について「飛行機が通ると子どもたちは体を硬くする。皆心に傷を負っている」「難民キャンプの外の世界を知らない子どもたちがたくさんいる」などと厳しい環境を伝えた。

普段の生活を送りながらできる難民支援(国際協力)として、メガネや服、寄付金を送っている企業取り組みも紹介された。

水野さんは「今日の話を友達や家族に伝えるだけでも難民支援の輪が広がる」と呼び掛けた。生徒たちはうなずきながらメモを取り、活発な質疑応答を繰り返した。終了後は生徒有志と水野さんとの懇談が行われ、生徒たちは国連の仕事について熱心に質問していた。